

令和5年度愛知県立西春高等学校 学校評価

本年度の 重点目標	1 生徒一人一人の多様な夢を実現する		2 生徒の自主性や主体性を育む	3 本校の魅力を積極的に発信する
項目（担当）	重点目標	具体的方策	年度末評価	評価結果と課題
生徒指導 （生徒指導部）	① 社会規範の確立と いじめの防止	・身近な交通のマナーや規則の遵守から公共性や社会性の拡充を図る。 さらに、いじめを許さない健全な心の育成を図る。	B	生徒の交通事故件数は昨年と変わらないものの、自転車乗車中の事故が多く、地域の方々からも自転車乗車マナーについてのご意見をいただくことが多かった。特に並走や一時不停止などが多かった。 いじめに関するアンケートからは、教員が普段の学校生活ではなかなか見られない部分がわかったりするなど、早期発見を図ることができた。
	② 学校生活の充実	・より良い学校生活に向けて、校則の見直しや改訂をする。	A	年々校則等の見直しや改正は行っているものの、更なる検討も必要な部分がある。
学習指導 （教務部）	① 新教育課程の実施 に向けたカリキュラムと評価法の研究	・「生徒一人一人の多様な夢の実現」に近づけるために、本校生徒に適した新カリキュラムならびに評価法を追究する。	A	新教育課程を実施している1・2年生の評価用成績システムを確立した。これにより大幅に成績処理の時間を短縮でき、各教科で時間をかけて厳密な評価を行う体制を整えた。 また、令和6年度からの教育課程について内容の変更を行い、より本校生徒に適したカリキュラムとした。
	② 授業の創意工夫と 学習活動の充実	・ICTの活用やアクティブラーニングによる主体的な学習活動の啓発 ・授業研修週間の充実	B	授業研修週間等は、昨年度と大きく変更するには至らなかった。ICTを授業で積極的に活用する科目が増えてきたが、より多くの科目でICTやアクティブラーニングによる学習を拡充されるよう、さらなる啓発が必要である。
進路指導 （進路指導部）	① 学力向上を目指す 学習指導・自ら考え、夢を実現する進路指導の充実	・生徒の進路意識の高揚を図るガイダンスや進路研究の実施 ・入試問題研究や模試結果の分析に基づく指導の充実 ・基礎早期テストを通じた基礎力の定着と学習習慣の確立	B	進路検討会・研究会では様々な観点から生徒の状況を把握し、模試の結果を受けて各教科で分析をし、学力伸長や受験大学等について具体的方策を考えることができた。 また、総合的な探究の時間やLTなどの時間を用いて、卒業生や大学の教員によるガイダンスを実施し、生徒の視野を広げることができたのではないかと。 今年度は地元志向の強さが感じられたので、やはり早い段階から全国を視野に入れた指導をすべきであった。 基礎・早期テストについては、概ね問題なく実施できたと思われる。一部負担をかけた教科があったのは申し訳ないことであった。
	② 信頼され期待される学校として、多様化する大学入試への対応	・生徒、保護者等に対する適切な情報発信 ・最新の情報の正確な把握	A	保護者等に向けた進路（受験）説明会は、今年度は以前のように会場を借りて実施した。参加人数は概ね例年どおり、多くの保護者等に参加していただけた。また、内容についても十分なものであったように思われる。 大学説明会への参加が少なかったので、もう少し積極的な参加を促すべきであった。
総務 （総務部）	① 防災減災体制の整備と充実 ～東日本大震災発生から12年～	・防災対策の強化 ・北名古屋市との連携強化 ・防災委員会の充実	A	防災委員会を中心に、生徒が主体的に取り組むことができた。 防災訓練の在り方について、生徒の提案を元に、工夫して行うことができた。 総合的な探究の時間を活用し、北名古屋市との連携を行いながら、防災意識の涵養に努めることができた。
	② 魅力ある学校像の発信 ～生徒募集を主とした広報体制の充実～	・学校説明会の充実 ・新しい広報体制の確立	B	学校説明会では、昨年度に引き続き中学生の来校時間を設定することで混雑を回避するとともに、申込受付をオンラインに変更することで業務のスリム化を図ることができた。 学校案内のみでなく、様々な媒体での情報発信を進めていく必要がある。
生徒会活動 部活動 （特別活動部）	① 学校行事の充実	・新型コロナウイルス感染症の予防対策に重点を置きながら、生徒が団結できる行事となるように工夫する。	A	学校祭の準備、運営において感染症対策を継続しながら、生徒が主体的に行動できる行事を実施することができた。
	② 生徒会活動の充実	・生徒議会の効率的な運営と各委員会との連携を充実させる。	B	各委員会の検討事項を行事の運営に反映することができた。生徒議会を通じて生徒からの要望をできるだけ多く検討できるようにした。
保健厚生 （保健厚生部）	① 教育相談の充実	・教育相談や特別支援についての知識や個々の生徒に対する支援の在り方についての教員の理解をより深める。	B	特別支援教育委員会で教育相談や特別支援の報告をすることで教員の理解を深めることができた。
	② 感染症予防	・新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の感染防止のための衛生的な環境づくりと、衛生に対する生徒の意識を高める活動を行う。	A	年度初めに黙食部屋を設け、換気や手指消毒の呼びかけをすることで衛生に対する意識を高めることができ、文化祭後の感染症の流行を最小限に抑えることができた。
図書情報教育 （図書情報部）	① 読書活動の推進	・委員会活動などを通して読書に親しみを持てるような啓発活動を行う。	A	新入生に対して、年度始めに図書室にてオリエンテーションを行うなど啓発活動を行った。1000冊を超える書籍の廃棄、更新を行い図書館資料の質を高めた。
	② ICTの利用の推進	・行事や学習面でICT（ロイロノートやTeamsなど）の効果的な活用を図る。 ・ICTの利用による校務効率化を図る。	A	ICTを授業で積極的に活用したり、デジタル採点を利用したりする教員が増えてきた。 アンケートや補習講座の登録など集約作業をTeamsを活用し校務効率化を図ることができた。
学年指導 （第3学年）	① 学校を中心とする学習指導の充実	・成功も失敗も前向きにとらえ、課題解決に向けて、意欲的に行動できる力を養う。	A	早朝学習や個人面談を活用して生徒の生活環境、学習環境を整えた。教室の自習開放の際も、多くの生徒が積極的に参加した。
	② 一人一人の多様な夢の実現に向けての指導の充実	・丁寧な進路指導のもとに、主体的な選択を促す環境を整える。	A	業後補習、土曜講座、年始ブレなどを有効に利用できた。進路情報を講話、学年通信などを通し数多く発信できた。
（第2学年）	① 規則正しい生活習慣と授業を中心とした学習習慣の確立	・授業に集中する環境を作り、自ら学ぶ姿勢を持った学習習慣を確立させる。	B	授業を効果的に受けるための学習習慣を確立できている生徒が多いが、一部の生徒で確立できていない者も見られた。進路実現に向け、指示待ちではなく自ら責任を持って必要な学習に向かう姿勢を今後も養ってきたい。
	② 学校活動における主体的行動力の育成	・様々な活動を通じて、主体的に考え積極的に行動できる力を養う。	A	学校祭においては、中心学年としての責任感のもと下級生を先導し、各自が持ち味を出した活動ができた。主体的に活動できる力を、今後も様々な場面で活かせるよう支援していきたい。
（第1学年）	① 規則正しい生活習慣と授業を中心とした学習習慣の確立	・新しい環境下での生活リズムを整え、学習習慣の土台作りを行う。	A	新しい学校生活に対してしっかり対応し、規則正しく生活できている。学習習慣においても概ね高校のペースに対応し、学習に取り組んでいると判断できる。
	② 主体的行動力の育成	・物事を前向きにとらえ、課題に向けて、主体的に行動できる力を養う。	B	指示を受けて行動できる生徒は多いが、高校生活においてまだまだ自発的に行動できない場面を見かける。行事や集会等で今後も継続的に働きかけたい。
安全衛生委員会	業務負担の平準化及び会議等の短縮	・業務の役割分担の見直し ・会議の事前準備を十分に行う	B	業務の役割分担については、一部の業務で偏りが出ていた。複数の担当者をつけることはある程度進んでいる。 会議の事前準備については、不十分なことがあり会議時間の延長につながってしまった。
総合評価		新型コロナウイルスが第5類に分類され、学校活動がコロナ前のように行えるようになったが、「コロナ前の形に戻す」のではなく、各分掌、学年で「コロナ後の形」を作り上げていくことができた。学校行事等で生徒がより中心となって企画したり、主体的に参加したりするようになった。 新学習指導要領や観点別評価への対応、校則の見直し、教育相談の充実など、取り組むべき課題は多いが、今後も生徒の安全・安心を第一に、生徒が中心となって学校生活を送れることを考えたい。生徒・保護者等、そして地域に信頼される学校づくりを進めたい。		